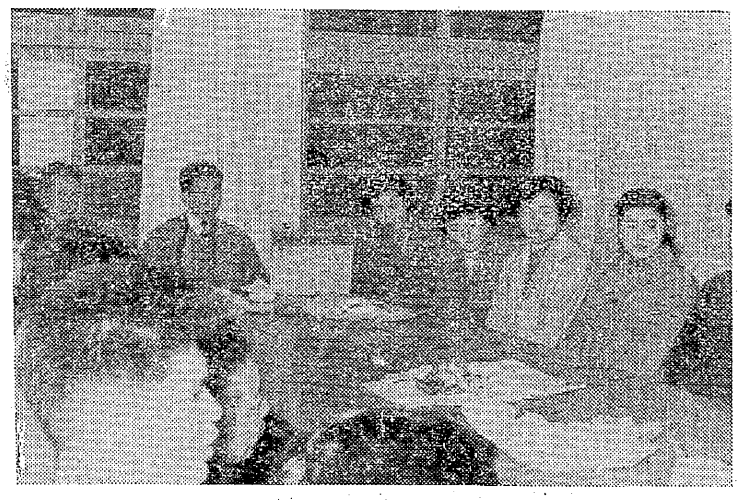
若人の場が欲しい

宮浦行動隊、合同労の女子と懇談

若人は新しい時代の担い手だ。かれらは若さの誇りを大いに自負し、新しい理想に燃えている。政治、芸術、恋愛などなど理想は涯しなく続いて行く。宮浦教宣部では青年たちの新しい討論の場として男女青年の語合いをこころみ、まず去る十三日合同労組の女子組合員と宮浦行動隊の若人を労働会館の応接室に招じて大いに語り合う機会を設けた。



楽しい始めての職場交流

この日応接間で午後五時から宮浦行動隊より十五名、紙貞など合同労組から十五名の若人たちが出席して四方八方話に花を咲かせ、若人の理想を語り合つた。

司会には大地評事務局の河野氏や宮浦教宣部長の小川氏が当つた。炭鉱の実体について行動隊の諸氏からそれぞれ自分たちの職場についての苦労話や仕事の内容などを紹介して相互に職場での苦労話が一しきり続けられた。

つづいて若人には切り離せない恋愛論に入つたが、以下二二のやりとりを紹介すると。

司会　女の人はどれ位いの手取りがある男が理想ですか。

女　手取一万五千円は欲しいわ。

男　俺たちはそうすると嫁は貰われんことになるね。（笑声）

司会　炭鉱だと大体その条件なら仕繰で二十八才位ですが、いいですか。

女　かまいません。私はよいと思います。

女　まず健康は人。

男　顔形も結構だがやはり健康を推すな。

男　健康も第一だがまず心の持ち方、気の合う人でないと困る。

男　美人、不美人は皮の張り方如何です。健康で明るい人だな。

男　美人でも冷たい感じを受ける人は困るな。

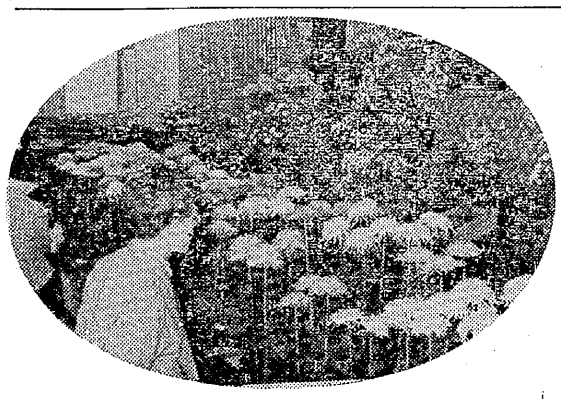
司会　内容ですね。心の素直な人がよいということになりますね

女　それが判るには交際が必要ですけど、その機会が殆んどありません。

このあと男女平等についての話題を挙げ、女性蔑視はお互いに苦いものが因習を破つて開拓して行くことなどが結論となつた。

結婚式について女性はさすが和服が圧倒的、費用はなるべく切詰めて旅行に廻したいという。

話題は大いにはずみ、映画のこと趣味のことなどいろいろと話合われたが、なにせ初会合であり期待通りの活発化にはならなかつたがいずれにしてもこういう機会が皆無といつてよい環境のため、この計画は大いに意義があり、こんど回を重ねて行くことを約して終了した。



美を競う菊　鮮らんと咲き誇る宮浦菊花展示会が去る七、八両日勝立講堂で催された。出品者中島氏以下二十三氏の丹精こめた一輪、二輪、三輪、大作懸崖、木作り、根上りなど各品種約四〇〇点が出品され、季節の香りに観覧者は完全に心酔した。

くらしのメモ

冬を迎える心得

秋風はだんだんつめたくなり、朝夕はぐんと冷えこむ日も多くなつてきました。冬はもうそこまでやつてきています。早目に住居や衣類などの用意をはじめましよう。

すきま風を防ぐには

部屋を暖くするには、すき間風を防ぐことが第一。部屋にすきま風の入るところはないか。壁の面と床との接触部、床板の合せ目、畳下、窓やドアの周囲、窓ワクとガラスの取付け、押入れの中などを調べてみてください。

畳下にすきま風の入るところがあつたら、床下をはがして根太の下端に耐水ベニヤ板を張つて、オガくずを敷きつめ、床板を張るか、または床板の上に直接畳をしかずターフエルトを下敷きにしてもよいでしよう。

その他のすきまは、パテをつめてビニールペンキを塗るか、布紙、壁紙、ビニール壁紙をはつたり、ゴムやセロテープで抑えるのも一方法です。

しかし、すきま風をなくした部屋では換気に気をつけましよう。

ビニールの障子紙

本格的な寒さがやつてくる前に障子の張りかえもぜひやつておきたいものです。きれいに張つたとたんに子どもがいたずらして破つたりということもよくあることです新しく生れたビニール入りの障子紙だと、子どものいたずらでもたやすくは破れないし、雨がかかつてもだいじようぶです。

この紙は、すくときさく（酢）酸ビニール乳化液をまぜてつくるのです。

子供の冬着

子供の冬着も計画的に用意しましよう。

【下着】何といつても純綿の伸縮のきくメリヤス様のシヤツやパンツが暖かで、洗濯も手軽にできます。女の子はこの上にシユミーズを着ましよう。男女とも三枚づつほしいもの。

【中間には】毛糸や毛織のセーター、カーデイガン、チヨツキなど子供は活動がはげしく汚れやすいので、ふだんは濃いめのもの、うすいかわいい色はなるべく外出用にしましよう。型もなるべくあつさりしたものが、上品でよいものです。また帽子とか手首とかにも体温の逃げない工夫がほしいものです。

【上には】ワンピースでも上着でも平な織物で、できればひとえ仕立にして、ときおり洗えるようなものがよろしいでしよう。どく寒いときのためには、そのまま教室内でも着たままいられるジヤンパーやハーフコートが必要です。暖房設備の不完全な学校はオーバー類を用意して、内外の調節をよくしてやりましよう。

毛布の買い方

年々見た目にも手ざわりもよい品がふえてきましたが、買うときはつぎのことに気をつけましよう。

まず肌ざわりがよく弾力性のあるもの。信用のあるメーカーで、その会社名がぬいこまれていることも目やすになるでしよう。純毛といつても、毛六割、スフ四割くらいからを云つています。ぼろ毛を再生したものも純毛の仲間に入つていますが、こういうものは毛のよごれをかくすために濃い色の総柄品が多く、見た目はいいのですが、毛がぬけやすいのです。むしろ化繊地の方が賞得でしよう。

上等品が嵩くて長もちするので結局は徳用ですが、毛布は虫がつきやすいので、何といつても手入れが一ばん大切です。

長屋灯記　中村かめお

凄い機動力ねえ

主婦たちが消防署見学

四山支部福祉三分会では去る十四日社会科学習として大牟田消防署を三十五名が見学へ行つた。

いよいよ師走も間近か、例年火魔が荒れ狂う火事のシーズンでもあり、ここらで防火・消火の知識を一そう高めて、自分たちの地域からこの種災厄を追放しようというものであつた。

午前十時に松本政治局員に引率されて消防署を訪問。本館二階の講堂で係の人から、まず消防署とはどんな仕事をするところかをミツチリ拝聴した。

ただ火事の際、消防車でかけつけて消火作業をすることだと思いこんでいたが、係の説明によつてこで消火の他に予防、警戒、水害救急の役目に日夜当つていることを知り、いままでの通り一ぺんの考えに多くの知識をうえつけていつた。

このほか火災についての種々の注意や、火事は最初の一分間が一番大切なことを知ることができた。

このあと署員の非常呼集の実地訓練や、無線車の見学、またホースによる実地消火作業とつぎつぎに見学、多くの見聞を広めて帰路についた。

見学者の一人Aさんは

初めて消防署をみましたが、いろいろなものが機械化され、機動力のあるのにびつくりしました。これなら安心だと心が安まりましたが、各家庭での知識が一番大切なことを聞かされ、大へん参考になりました。

と喜んで語つていた。

今週の映画

○大天地（27―3）待ニツポン、九人の死刑囚

○銀星（27―3）愛は惜しみなく青い潮

○大牟田名画座（27―3）間違えられた男、無法者の群れ

○東映（26―2）恋風道中、お母さんの東京見学

○太陽館（27―3）メソポタミヤ風の中の子供、裸の天才画家山下清

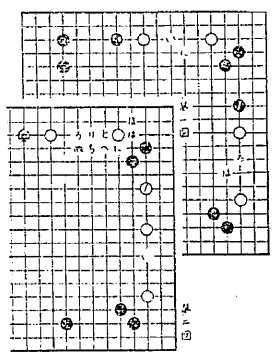
囲碁教室（34）

ヒラキとツメ　2

第一図、黒1のヒラキツメは狭いようですが、この局面では最も重要な点です。即ち黒は1のヒラキにより治まり形になつて、白から攻められるおそれが全くなくなりました。その上今度は上下の白にたいして、いまたはろに打込んで攻める狙いをもつことになります。白迎と一方を守れば、黒いと他方に打込むし、また白にと守れば、黒ろとどちらか一方の打込みが打てるわけです。このように、同じようなところが二カ所あれば、どちらか一方は打てるわけで、これを見合いといいます。

第二図、前図と同じ局面で、逆に白から1とヒラキツメを打つたとします。すると右上隅の黒は完全に治まつていないので強く白地に打込むことができません。強いて打込めば、打込んだ石と隅の不安定な石とが両がらみになつて両方を同時にしのぐことは容易ではなく、たちまち苦戦に陥ります。白1にたいして、黒は、白に、黒ほと隅を生きるのは、堅いが消極的ですし、また黒はにコスミツケる手でへにカケ、白と、黒ち、白り、黒ぬ、白ろと打つのは、白終に白を固めることになりますしたがつて白1はい、ろの打込みを同時にけん制する働きをもつています。

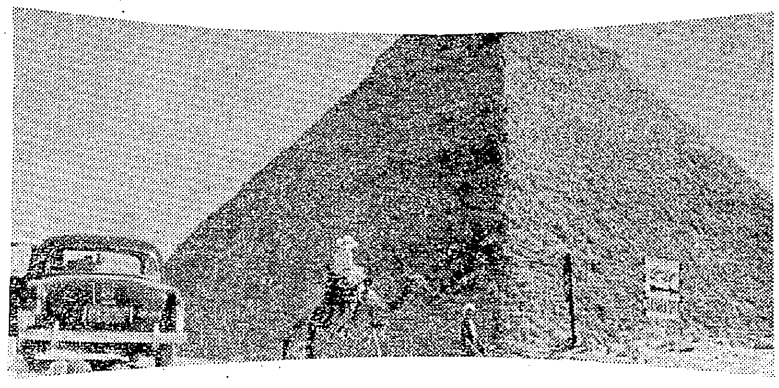
前図黒1および本図白1は共に狭いヒラキのようですが、攻守両方に働く非常に大きい手です。



橋口　初義
境　敬一

メソポタミヤ

C・S総天然色
長篇記録映画



（27日より太陽館で上映）

【かいせつ】東京大学イラク・イラン遺跡調査団の業績を、「カラコルム」で声名をあげた中村誠一キヤメラマンと鬼才桑野茂監督、団伊久磨録音、小沢栄太郎解説というベストスタツフで製作した日本最初のシネスコ総天然色、長篇記録映画。

【あらまし】五千年も前に作られたピラミツトやスフインクスが古い歴史の足音を、ゆきずりの観光客にも呼びかけてくるようだ。またエジプト戦争の生々しい跡が今もポートサイドやスエズ運河に残り当時の激戦をしのばせる。

このエジプトとイラク国のテイグリス、ユーフラテス両河に沿つたメソポタミア地方は、古代文化の花開いたところ、その中央にアラビアンナイトで有名なお伽話の都バクダードがある。今は欧米の新しい自動車が流れているものの裏町は洋服のたき売り、街頭の写真屋、一日中世間話に興ずる男達、昔ながらの鍛冶屋などが混み合うエキゾチツクな町である。

バクダードから南へ下るとペルシヤ湾に面してこの国唯一の港、またイスラム教の金色さん然と輝く寺院の前を沢山のゴンドラが行き交う東洋のベニス、バスラ港が開けてくる。

カルバラにある大きなモスクの格子に口づけて願うアラビヤの女

限りない空、果しない草原を今日も緑を求めてさすらう遊牧民の群、その中から聞える慰の笛で作つた「ミズーチ」の笛の音は、その昔彼等の祖先がつくつた世界にまたがる大帝国を、なつかしむ如く流れる。イランの南、ペルセポリスは二千五百年前、ペルシヤ帝国のダリウス一世大王が、富と権力の限りをつくして建てた豪壮な宮殿遺跡がデーツの林の彼方に見える。世界最初のアスファルト舗装道路、空中庭園、煉瓦の彫刻など往時をしのばせる。バビロンの直ぐ近く、五千年前煉瓦とアスファルトで天までとどけとシユメール人が建てたウルの遺跡が見える

こうした豪壮な宮殿を作つたころ、庶民はどうして暮していたかを探るため、昭和三十一年十月東大イラク・イラン遺跡調査団が北メソポタミアのテル・サラサートを発掘し三笠宮も参加され多くの貴重な出土品を得た。

こうした優れた古い歴史を持つ中近東に、いま建築の響きが聞える。三千平方粁の砂漠地を沢野に変えようとするドカンダムの建設エジプトの大製鉄所など、流れゆく歴史とともにさらに新しい明日への人類文明の糸をうけついで行こうとしているのである。